

いのち—90代の寂聴文学

2020年4月9日(木)～5月24日(日)

【休館日】 月曜日(ただし5月4日は開館)

【開館時間】 9:30～17:00

【会場】 1階特別展示室・ギャラリー
3階収蔵展示室

【観覧料】 一般 520(410)円

高校・大学生 360(290)円

小・中学生 260(200)円

* ()内は20人以上の団体割引料金。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は土・日・祝日は無料。

【主催】 徳島県立文学書道館

【後援】 徳島新聞社・四国放送

関連イベント

井上荒野講演会

5月23日(土) 午後2時～3時30分

1階ギャラリー

※申込必要

瀬戸内寂聴は現役最高齢の作家で、97歳の今も文芸誌や新聞に小説やエッセイを連載しています。90代になって圧迫骨折、胆嚢がんや心臓の手術を経験しましたが、懸命のリハビリで奇跡的によみがえり、作品を発表し続けています。

本展では、その90代に執筆した作品を取り上げます。死と隣合わせになった日常をユーモラスに描いた『死に支度』、愛と性のさまざまな形を描く『求愛』、友人の作家たちを描いた『いのち』。そして闘病中、小説が書けず鬱になりかけたときに気持ちを奮い立たせて完成させた『句集ひとり』など、自らの可能性を追求した幅広く豊かな文学世界を紹介します。

それらは「生命の火を燃焼し尽くすことが生きることであり、ペンを握ったまま死にたい」と語る寂聴の「いのちの結晶」でもあります。90代になっても平和のために行動し、若い人々と交流し続ける姿も併せて紹介します。



長編小説『いのち』の直筆原稿



『求愛』
2016年 集英社



『月の輪草子』
2012年 講談社



『句集ひとり』
2017年 深夜叢書社



『死に支度』
2014年 講談社



『いのち』
2017年 講談社



『わかれ』
2015年 新潮社

関連イベント

- 「わたしの好きな寂聴作品」感想文コンクール表彰式
4月18日(土)14:00~15:00 * 申込不要
- 展示解説+新町川クルーズ+まち歩き「寂聴ゆかりの場所をめぐる」
4月25日(土)9:30~12:00 * 申込必要
- 朗読会『「いのち」を読む』
5月2日(土)14:00~15:00 * 申込不要
- 展示解説+吉野川クルーズ+寂聴原作人形浄瑠璃「モラエス恋遍路」鑑賞
5月16日(土)13:30~16:30 * 申込必要
- 講演会「今、作家であるということ」講師/井上荒野(作家)
5月23日(土)14:00~15:30 * 申込必要

講師プロフィール

井上荒野(いのうえ・あれの)

作家。1961年東京生まれ。89年「わたしのヌレエフ」でフェミニン賞を受賞し、デビュー。2004年『潤一』で島清恋愛文学賞、08年『切羽へ』で直木賞、18年『その日は今日はやめておきましょう』で織田作之助賞を受賞。19年に寂聴と父・井上光晴、その妻をモデルにした小説『あちらにいる鬼』を刊行。近著に『あたしたち、海へ』『よその島』がある。

申込方法

はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号をご記入のうえ、お申し込みください。当館1階受付でも申し込みます。



井上荒野さんと寂聴(天台寺にて)

※作家の高橋源一郎さん、平野啓一郎さんらによる「寂聴サミット」(2019年12月9日、東京)の様子も当館1階ロビーで上映します。



寂聴サミット(早稲田大学小野記念講堂)。左から尾崎真理子、平野啓一郎、高橋源一郎、伊藤比呂美の各氏

交通アクセス(JR徳島駅から)

■徒歩 約15分

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して300m。徳島中学校東隣。

■バス

[徳島市営バス]7番乗り場「川内循環(右回り)」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

[徳島バス]2番乗り場「前川経由」に乗車。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

■タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。

■駐車場

当館北側にあります(43台、大型バス2台)。



言の葉ミュージアム

徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540
Eメール kotonoha@bungakushodo.jp
ホームページ http://www.bungakushodo.jp